

防災推進国民大会 2018 において「災害と保健・医療連携フォーラム」を主催しました (2018/10/14)

テーマ：ぼうさいこくたい、災害、保健、医療
 場所：東京ビッグサイト（東京都江東区）

2018年10月13日(土)～14日(日)に、東京都有明の東京ビッグサイト等において、内閣府等の主催で「防災推進国民大会 2018 (ぼうさいこくたい)」が開催されました。その中で、東北大学災害科学国際研究所は、公益社団法人日本看護協会および一般社団法人日本災害医学会の後援を得て、「災害と保健・医療連携フォーラム ～災害にあっても健康で乗りきる!～」を14日の午前に主催しました。

このセッションは、東日本大震災、熊本地震、各地で連続する風水害などの経験と教訓を踏まえて、医療・保健・福祉の面で、専門家、関係者、市民がいかに連携して被災者を救援し、支えていくかを考えるとともに、心身の健康を考慮した避難生活の過ごし方などの、市民の方々にも知っていただきたいことを分かりやすく解説するという趣旨で実施いたしました。当研究所の丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門）が司会を務め、登壇者は以下の通りです。

東北大学災害科学国際研究所 災害医学研究部門 助教（DMAT 隊員） 佐々木 宏之
 国立病院機構災害医療センター（DPAT 隊員） 河嵩 譲
 （公社）日本看護協会 看護開発部看護業務・医療安全課長 久保 祐子
 災害看護 GL プログラム（東京医科歯科大学大学院 協働災害看護学専攻） 濱舘 陽子
 東北大学災害科学国際研究所 災害医学研究部門 教授（災害医学研究部門長） 児玉 栄一
 ※下線は、当研究所のメンバー

冒頭の丸谷教授によるフォーラムの趣旨説明に続き、佐々木助教と河嵩氏が被災地に駆け付ける緊急医療チームのDMATとDPATの任務について、久保氏が避難者の健康を守るための災害支援ナースの役割について、濱舘氏が看護職と企業等との協働で行う帰宅困難者対策の取り組みについて、最後に、児玉教授が自助・共助・公助の視点からの災害時に健康を維持するアドバイスについて発表しました。また、今回新たに作成した被災者の健康のためのパンフレットを当研究所の富田博秋教授（災害医学研究部門）がフロアから紹介し、被災時に限らない健康づくりの重要性もコメントしました。

その後、登壇者全員によるパネルディスカッションを行い、各登壇者から他の登壇者の発表を踏まえつつ、被災時の医療関係の支援全体像の説明などが行われました。当日は約40名の方に参加いただき、会場からは心のケアの具体的な事例、災害支援ナースの枠組の詳細などの質問がありました。なお、本セッションは、当研究所の国内連携委員会が準備・運営を行いました。



丸谷教授（趣旨説明）



佐々木助教（発表）



児玉教授（発表）



富田教授（説明）



パネルディスカッションの様子